

# 非稼働MRIをシェアリング

ユカリア（東京都千代田区）と日本航空（以下JAL/同品川区）は10月21日、医療・ヘルスケア領域への取り組みに関する合同記者説明会を開催。JALは今年7月よりライフ・コマース事業の一環として、ユカリアが提供する脳ドック検診サービス「スマート脳ドック」の利用促進に乗り出した。10月29日の「世界脳卒中デー」を前に、イベントを通し普及を目指す。

## JAL・ユカリア協業 脳ドックで未病に貢献



JALマイレージ・ライフスタイル  
事業本部ライフ・コマース事業部  
中村健太郎部長



ユカリア  
山田和宏  
執行役員

スマート脳ドックは、全国280カ所以上で受診が可能な短時間・低価格の「MRIシェアリングエコノミーモデル」によるサービス。医療機関のMRIの非稼働時間を活用し、予約から問診、結果確認までをオンラインで完結できる。検査は約20分で終了。検査画像はスマホ上で閲覧・保存可能で、異常が確認された場合には専門医療機関の紹介も行う。

背景にあるのは、健康寿命の延伸と未病・予防への社会的な注目だ。ユカリアの山田和宏執行役員は「脳ドックの利用者を増やすことで、地域医療の維持や病院経営にも貢献できる。シェアリングエコノミーの仕組みを活用

用し、安価で身近な検診を普及させたい」と語る。

今年4月、JALグループのJALUXトラストが運営する介護事業所をユカリア傘下のクラナが承継したことが協業のきっかけとなった。JALマイレージ・ライフスタイル事業本部ライフ・コマース事業部の中村健太郎部長は「当社は、コロナ禍を経て航空事業以外の収益比率が高まっており、非航空領域の柱にヘルスケアを位置付けたい。ユカリアの『ヘルスケアの産業化』を目指すビジョンに共感した」と説明。スマート脳ドックを、

JALモーターやJAL保険などと並ぶ生活密着型のサービスとして展開する考えだ。

また、JALグループの商社機能を持つJALUXでは、企業向け福利厚生の一環として脳ドックを提案。すでに一部法人では、従業員の健康支援策として導入が始まっているという。JALマイレージバンク会員を対象に、マイルを活用した特典受診やマイル積算サービスを提供している。スマート脳ドックの提供価格は2万4750円（税込）。マイル清算の場合、清算マイル数は500マイル。特典交換の場合は2万2000マイル。

記者説明会では、メディカルチェックスタジオ東京銀座クリニックの知久正明院長が「未病とスマートドック」をテーマにミニセミナーを実施。脳血管疾患が日本人の主要な死因かつ要介護となる大きな要因であること、脳ドックは、その利便性とシェアリングモデルの先進性が評価され、25年度グッドデザイン賞を授賞している。

「脳ドック検診サービスを展開する法人はあるが、当社のようにシェアリングエコノミーの仕組みを採用し、リーズナブルにマッチングするサービスはほかにないと思う。唯一のサービスとして、より多くの人の未病に貢献できるような普及したい」（山田執行役員）

## 検診を身近に マイルで促進

「スマート脳ドックの利用者を増やすことは地域医療を守ることにもつながる」と山田執行役員。ユカリアが累計8万人以上が受診。全国では約16万人が受診している。10代から血流に課題がある

2800病院ほどあるという。さらに、ユカリア傘下で老人ホーム入居紹介業を手掛けるあいらいふが持つ介護業界のネットワークを活かし検査数を増やしていくことで、高齢者の健康寿命延伸にもつながりたいと考えた。

「脳ドック検診サービスを展開する法人はあるが、当社のようにシェアリングエコノミーの仕組みを採用し、リーズナブルにマッチングするサービスはほかにないと思う。唯一のサービスとして、より多くの人の未病に貢献できるような普及したい」（山田執行役員）

# 学研・MCSが新会社 京大との共同研究事業化



Gerok  
山本教雄社長

学研ホールディングス（東京都品川区）とグループ会社のメディカル・ケア・サービス（以下・MCS/さいたま市）は10月1日、京都大学との共同研究を基盤とする新会社「Gerok（ジェロック）」を本格始動させた。認知症や高齢関連

疾患の予防・治療に資する研究成果の社会実装を進める。

Gerokが設立されたのは今年8月。設立に先立ち、4月には京都大学大学院医学研究科に「健康加齢医学講座」が設置された。同講座では、老化の分子メカニズムや疾患の病態解明、AIを活用した認知機能評価システムの開発、抗老化・健康長寿素材の研究に取り組んでいる。

事業は創業とヘルスケアの両軸で展開。創薬分野では、抗老化遺伝子「α-Klotho（アルファ・クロト）」の機能解析を基盤に、認知症予防・治療30年製品化を目指す。老化を「遅らせる・治療する」医薬品の開発を行う。ヘルスケア領域では、その知見を応用した製品の開発を27

年度の実用化に向けて進める計画。

また、30年を目標に、認知症やMCIを含む疾患の予防から治療まで一貫した研究と製品の開発を目指す。先行するヘルスケア製品の収益や研究成果を創業へ還元し、「研究と事業の循環モデル」を構築する。

Gerok社長にはMCS社長の山本教雄氏が就任。京都大学・鍋島陽一特任教授は、同社の最高科学責任者及び顧問を務める。本社は京都大学「イノベーションハブ京都」に置かれ、アカデミアと企業の連携によるイノベーション創出拠点としての役割も担う。

山本社長は「MCSは99年の設立以来、一貫して認知症ケアに取り組んできた。鍋島教授との共同研究を通じて、認知症の予防・改善の一助となる新たな選択肢の創出に挑戦する」としている。

「第43回日本神経治療学会学術集会」を熊本県で開催する。会場は熊本城ホール、杏林大学医学部脳卒中医学・神経内科学の平野照之教授が会長を務める。テーマは「神経治療・守破離」。ホール内に9つの会場を設け、3日間110超の講演・シンポジウムなどを実施する。

ホスピス型住宅「R」と運営する医療法

「第43回日本神経治療学会学術集会」を熊本県で開催する。会場は熊本城ホール、杏林大学医学部脳卒中医学・神経内科学の平野照之教授が会長を務める。テーマは「神経治療・守破離」。ホール内に9つの会場を設け、3日間110超の講演・シンポジウムなどを実施する。

ホスピス型住宅「R」と運営する医療法

## ホスピス型住宅考察も 11/6〜8 神経治療学会学術集会

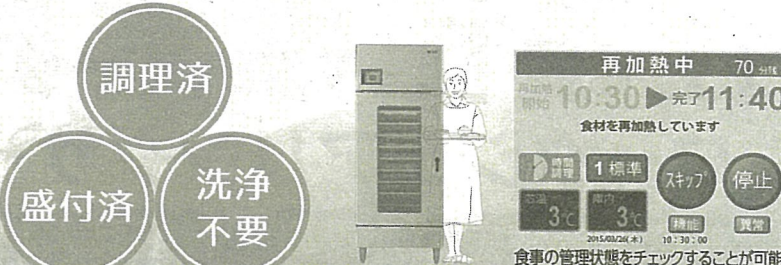
一般社団法人日本神経治療学会（東京都墨田区）は11月6〜8日、「第43回日本神経治療学会学術集会」を熊本県で開催する。会場は熊本城ホール、杏林大学医学部脳卒中医学・神経内科学の平野照之教授が会長を務める。テーマは「神経治療・守破離」。ホール内に9つの会場を設け、3日間110超の講演・シンポジウムなどを実施する。

高齢者施設・福祉施設の食事を完全サポート

# すまあとミール

## 「すまあとミール」ってなに？

セントラルキッチンで調理を行い、器に盛り込んだ状態で施設へお届けする新しいサービスシステムです。さらに食事後の洗浄作業もいらないことから、専属で厨房作業を行う人員を確保する必要がなくなります。



セントラルキッチンで調理・盛付したお食事をお届けします。タイマー付き再加熱機で温めるので、適時適温で提供ができます。さらに食器の洗浄もセントラルキッチンで行います。

最小限の設備でスペースの有効活用

調理・盛付・洗浄不要で手間なし

安心の衛生管理

アツアツの食事を同時提供



日本医療食研究所

人・食・健康をシステムする

お問い合わせ

埼玉県さいたま市北区東大成町2-250-3KBLビル

TEL.048-666-1955